

候儀有之間敷哉、且前書座元并座組頭役之もの、不埒不届有之、御答御仕置等申付候節者、最寄座元等、其支配領之地頭江懸合呼出、前同様取計可然筋ニ候哉、右其新瀉寺町通五之町吉兵衛借家座頭德壽一、不届之所業および候一件ニ付、差向見合度儀有之候間、御用多ニ者可有之候得共、先般御問合書江も、一同御取調否、早々御挨拶有之候様承り度存候、右之段可得御意如斯御座候以上、

安政六年六月朔日

右山善一郎

池田播磨守殿

大澤豊後守殿

山口丹波守殿

待遇

〔續視聽草 二集 十〕當道配當鑑

抑當道座中之祖師者、人王五十八代光孝天皇之御子天夜之尊と申奉る、略○中山城國山科之郷に御隠居まします、時に光孝天王より勅有之、何にても御望之事おはし奏聞有べき旨勅定有りしかば、宮之御答に、今の御徒然には、盲人ども召集め、御伽に被成度よし奏聞ありければ、是御尤之筋に被思召、近國之筋め正しき盲人ども召集め、御伽となし給ふ、その宮の御家領、大隅薩摩の内に數ヶ所有り、毎年貢米を奉り、瞽者どもにわかち給ふ、猶予なからん後も、此領を立おかれ、諸國の瞽者共に下し給ふ、然ルに後鳥羽院之御時に、子細有之、施行米退轉す、其後四條之院之御時、當道盲目法師の頼なき事御あはれみ有之、公儀江被召置之、諸道之運上を瞽者江賜之、是配當之始之事と申傳ふるなり、右運上と申者、先婚禮にきとう料、家督料、代替り料、結納料、婦人出産に産衣料、男子者勿論、女子にても、總領には産著料、次に深曾木料、帶とき料、髮置料、田地賣買料、うぶ立産あき料、元服烏帽子料、官途料、家督冥加金、新宅ニ竈之料、藏建ニ新造之料、寺地には堂供養料、鐘供